



## 今年の花の花粉症は？

—滋賀医科大学耳鼻咽喉科学講座のスギ・ヒノキ花粉症研究から—

今年も春の花の花粉症の季節が近づいてきました。スギ・ヒノキ花粉症は日本人の3～4人に一人が罹患し、いまや国民病ともいえます。

花粉症の治癒が期待できる唯一の治療法として、2014年から標準化スギ花粉抗原を用いた舌下免疫療法の保険診療が開始されています。

滋賀医科大学耳鼻咽喉科学講座では、1999年から20年以上継続してスギ・ヒノキ花粉飛散数を測定し、ホームページで公表して翌年の花粉飛散予測を行っています。

### POINT

- ・スギ花粉症患者の70～80%は、ヒノキ花粉症も有し、京滋地域では、スギ花粉は2月下旬から4月中旬、ヒノキ花粉は3月下旬から5月初旬まで飛散し、スギ・ヒノキ花粉症の患者さんは3か月以上辛い時期が続きます。
- ・2019年のスギ花粉飛散数は過去最大でしたが、過去の飛散状況と昨年夏の天候から、2020年のスギ花粉は少量飛散と予測しています。
- ・ヒノキは西日本で多く、関西ではヒノキ花粉飛散数がスギ花粉飛散数を上回っていますが、ヒノキ花粉抗原による舌下免疫療法は未開発のままです。
- ・スギ花粉抗原とヒノキ花粉抗原には高い相同性があり、スギ花粉舌下免疫療法はヒノキ花粉症にも効果が期待されましたが、我々の検討ではヒノキ花粉症に対する有効性は50%程度に過ぎません。
- ・スギ花粉舌下免疫療法のヒノキ花粉症に対する臨床効果と、免疫学的作用機序、その対応についても、最新の研究内容をもとに紹介します。

【別紙に詳細あり】

今回、当講座の研究で得られた知見から、今春の花の花粉飛散予測や、花粉症の治療法について下記の日時に解説したいと存じますので、ご参集いただければ幸いです。

■日 時：2月10日（月）10：00～

■場 所：滋賀医科大学内（管理棟前からご案内します）

※管理棟前に駐車場をご用意します。（別添「会場案内」参照）

■説明者：耳鼻咽喉科学講座 教授 清水 猛史（しみず たけし）

■内容・詳細の照会先 滋賀医科大学 耳鼻咽喉科学講座 教授 清水 猛史  
TEL：077-548-2261

■プレスリリース発信元 滋賀医科大学 総務企画課 叶・竹島  
TEL：077-548-2012 / e-mail：hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp

## スギ・ヒノキ花粉症の現状と今後の対策

### －花粉飛散状況の変化と新たな治療法の展望－

- 1) 大津市における過去 20 年間のスギ・ヒノキ花粉飛散数の計測をもとにした今後の花粉飛散予測
- 2) スギ花粉舌下免疫療法のヒノキ花粉飛散期への効果（免疫学的作用機序と臨床効果）

スギ・ヒノキ花粉症は日本人の3～4人に一人が罹患している国民病で、京滋地方ではスギ花粉が2月下旬から4月中旬、ヒノキ花粉が3月下旬から5月初旬まで飛散する。スギ花粉の主要抗原であるCry j 1とCry j 2はヒノキ花粉のCha o 1、Cha o 2と高い相同性を有し、スギ花粉症患者の70-80%は、続いて飛散するヒノキ花粉にも感作し、スギ・ヒノキ花粉症は3か月以上の長期間にわたって患者さんのQOLや学習、労働生産性に影響を与え、莫大な治療費が費やされている。

第二次大戦後、スギ・ヒノキの植林が盛んに行われた結果、現在の日本の森林面積の4割は人工林で、そのうちスギが44%、ヒノキが25%を占めている。ヒノキの人工林は西日本で多く、関西ではヒノキ花粉の飛散数がスギ花粉の飛散数を上回っている。今回のプレスリリースでは、我々の過去20年間にわたる、スギ・ヒノキ花粉飛散数の計測をもとに、本年度以降の花粉飛散状況の変化について予測し紹介する。

花粉症の治癒が期待できる唯一の治療法として、2014年に標準化スギ花粉抗原を用いた舌下免疫療法の保険診療が開始された。それまでの皮下免疫療法に比べて、自宅で行うことができ、アナフィラキシーショックの副作用がほとんどないことから、急速に普及した。その後、ダニ抗原による舌下免疫療法が導入されたが、ヒノキ花粉の舌下免疫療法は未開発のままである。当初はIgE抗体に対する強い交差反応性から、スギ花粉舌下免疫療法はヒノキ花粉症にも効果が期待されたが、我々の検討ではヒノキ花粉症に対する有効性は約50%程度に過ぎない。スギ花粉舌下免疫療法の作用機序についてはまだ不明な点が多いが、本プレスリリースでは、ヒノキ花粉症に対する臨床効果と、免疫学的作用機序との関連について、最新の研究内容をもとに紹介する。

特に、ヒノキ花粉飛散数が多い関西地方では、スギ花粉舌下免疫療法の効果が不十分なヒノキ花粉症に対する対応が、今後重要になると考えられる。

#### <参考文献>

- 1) Kikuoka H, Kouzaki H, Matsumoto K, et al. Immunological effects of sublingual immunotherapy with Japanese cedar pollen extract in patients with combined Japanese cedar and Japanese cypress pollinosis. Clin Immunol 210, 108310, 2019
- 2) 菊岡弘高、有方雅彦、神前英明、他. 滋賀県大津市におけるスギ・ヒノキ花粉飛散結果からみる今後の展望. 職業・環境アレルギー誌 25:77-83, 2018
- 3) 湯田厚司、小川由起子、荻原仁美、他. スギ花粉舌下免疫療法のヒノキ花粉飛散期の臨床効果. 日耳鼻 120:883-840, 2017

